



## 今月のトピック

栽培終了後は栽培システムをメンテナンスしましょう



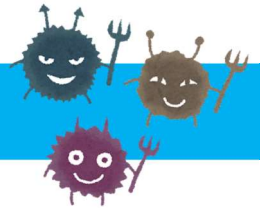
栽培もいよいよ終盤戦ですね！栽培サポート通信では一足先に養液栽培システムのメンテナンスについてお知らせします。栽培終了後はしっかりメンテナンスして次作を迎えられるようにしましょう！

## 今作を振り返り、栽培システムをメンテナンスしよう！

夏に栽培を終える方は1作おつかれさまでした。今作は病気の発生や栽培システムのトラブルはありませんでしたか？次作を安心してスタートするために、栽培終了後は栽培システムのメンテナンスを行いましょう。

栽培期間中になかなか作業できないのは、①培地の交換や消毒、②給液ユニット等の配管洗浄です。これら2つは栽培をお休みしている間に作業してしまいましょう。

## 病気が心配なときは培地交換or消毒を



### ● 養液栽培で土壤病害が発生した場合の管理

土壌から隔離している養液栽培であっても、ハウス外からの病原菌の侵入により土壤病害が発生してしまうことがあります。**病気の心配がある圃場は、培地を新しいものに交換するか、栽培終了後に下記のような資材を使って培地を消毒しておきましょう。**

### ■ 施設栽培で使用されることが多い資材

	キルパー（灌注）	クロールピクリン錠剤	次亜塩素酸ナトリウム
培地消毒	○ フザリウムに対して効果が期待できる	○ 青枯病やフザリウムなどに効果あり	△ 培地内に灌注して、薬液に接触した部分は消毒可能
古株枯死	△ 十分な薬量があれば、ある程度は枯死させることができる	× 株がある状態では処理できない	× 古株を枯死させる効果は期待できない
雑草枯死	△ 十分な薬量があれば、ある程度は枯死させることができる	○ 高い確率で枯死させることができるが、人体へのリスクが高い	× 雑草を枯死させる効果は期待できない
害虫駆除	○ コナジラミ、アザミウマ、センチュウに対して効果が期待できる	× 培地をビニールで覆う必要があるため空間への効果は期待できない	× 害虫を殺す効果はない

## おすすめ資材

## キルパー®

クロールピクリンと比べて安全性が高く、培地消毒、古株枯死、害虫駆除に効果がある資材です。液肥混入器を使い圃場に灌注するだけで処理ができます。培地の被覆等が不要で消毒の手間を軽減できます。

\* 使用量：40L/10a

\* 天気の良い日に作業してください。

\* 詳しい使い方は近日中に別紙でお知らせしますのでお待ちください！

トヨタネ株式会社



## 事例紹介

トマトのお客様の圃場を巡回していると、栽培後半に株元から枯れあがってくる症状が発生している現場があります。症状が出たココバッグからは、「病害発生」レベルの数（発病ポテンシャル3）のフザリウムが確認されました。本来、病気の発生リスクが高い状況では、新しい培地への交換を推奨していますが、キルパーの処理でフザリウムへの消毒効果が確認できました。

対象病害・菌名	分析方法	分析値	単位	発病ポテンシャル
青枯病	希釈平板法	< 100	cfu/g (乾重)	1
フザリウム オキシスポラム	希釈平板法	$3.4 \times 10^5$	cfu/g (乾重)	3

キルパー処理後

青枯病	希釈平板法	< 100	cfu/g (乾重)	1
フザリウム オキシスポラム	希釈平板法	<40.0	cfu/g (乾重)	1

次作も引き続き同じ培地を使う場合は消毒がオススメです

## 給液ユニットのメンテナンス・洗浄

### ● 栽培終了後は給液ユニットの汚れをチェック！

#### ✔ 重要チェックポイント

#### ① 点滴資材（PEパイプ、ドリッパー、点滴チューブ）

栽培システムを何年も使用していると汚れが蓄積し、点滴資材に詰まりが発生します。洗浄剤を流して、配管内を洗浄しましょう。洗浄剤は状況に応じて使い分けます。

『アグリクロール』	▶成分：次亜塩素酸ナトリウム 有機物（藻、ヌメリ、バクテリア）の除去に有効 原水に有機物が多く、点滴資材が詰まりやすい圃場におすすめ
『チューブクリーン』	▶成分：有機酸 無機物の汚れ（肥料カスなど）の除去に有効 高糖度栽培や、高ECで管理している圃場におすすめ

※薬液が汚れに付着することで汚れを溶かすため、配管や点滴資材が完全に詰まっている場合には薬液が汚れの内部まで届かず、効果が期待できませんのでご注意ください。

#### ② フィルター（ディスクフィルター、スクリーンフィルター等）

フィルターが汚れで詰まってくると、送水圧力の低下や液肥ポンプの打ち込み不良\*の原因になります。\*フィルター前の配管内の圧力が上がり、液肥ポンプが圧力に負けてしまう

#### ✔ プチチェックポイント

#### ① 液肥混入器のホース

意外と見落とされているのが液肥吸込み側のホースです。長年使っていると、素材自体が硬化してきたり、高濃度の肥料を使用している場合には中が肥料で詰まってきたりして、肥料の吸込み量が減ってしまいます。この機会に交換をご検討ください！

昨年の夏に現場でメンテナンスをした中では、液肥混入器のホースの交換が一番多かったです

メンテナンス  
担当者



#### ② 定量ポンプの増し締め

ネジやナット類が緩み、液漏れによる機器故障の原因に。次作の前に一度増し締めを！  
トヨタネ株式会社